

補強提案書

【耐震診断法の適用範囲について】

・本ソフトは、3階建てまでの在来軸組構法、伝統的構法、桝組壁工法の木造住宅、（学校校舎、体育館、幼稚園舎などの大規模木造建築物を含む）、立面的な混構造（1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造）の建物の木造部分を想定して作成されています。

※耐震診断法は、比較的矩形な縦2・3階建てを想定して作成されています。そのため、2階が二つに分かれている建物や、平面形状がコの字型など、著しく不整形な建物について、本プログラムで診断することは不適切です。

※下記の建物は適用範囲外です。

丸太組構法、旧38条認定および型式適合認定によるプレハブ工法住宅、平面的な混構造、スキップフロア

【本ソフトの適用範囲について】

・本ソフトでの耐震診断は、階高3.4m程度までの建物について適用して下さい。

【結果を読むに当たっての注意事項】

・本診断書における在来軸組構法・桝組壁工法診断時の「その他の耐震要素の耐力 Q_e 」は、有開口壁長より算出しています。

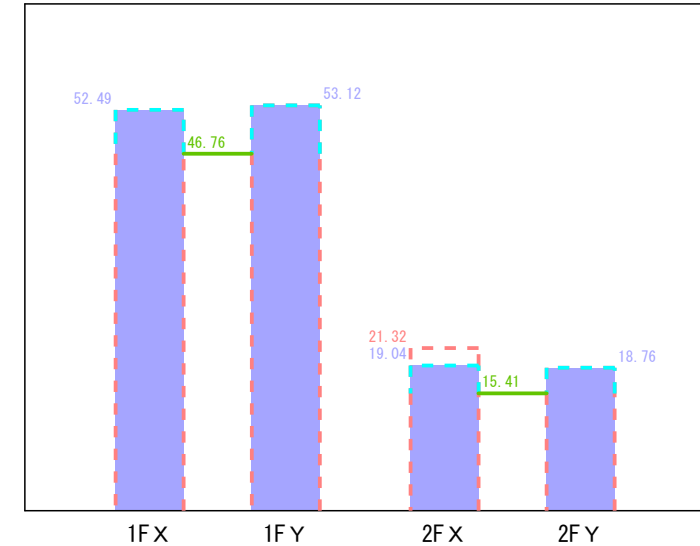
・N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

総合評価

あなたの家の強さ(保有・必要耐力)

単位: kN

Qu 必要耐力 壁・柱の耐力 保有耐力



総合評価

上部構造評点のうち最低の値	評点	判定
1.12	1.5以上	◎ 倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○ 一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△ 倒壊する可能性がある
	0.7未満	× 倒壊する可能性が高い

◆建物概要

建物名称	在来軸組構法サンプル 邸			
建築地	東京都	建物階数	2	
備考		診断の方法	方法1	
構法	在来軸組構法	低減係数E	偏心率	
1階構造種別	木造	軟弱地盤割増係数	1.0	
外壁材種	木ずり下地モルタル塗り	竣工年月	1996年6月(平成8年)	
基礎仕様	無筋コンクリート	築年数	築10年以上	
柱頭柱脚接合部	Ⅲ,Ⅳほぞ差し、釘打ち、かすがい等	建物重量	重い	
下屋部低減係数	平屋建てもしくは最上階として計算する	混構造割増係数	1.0	
必要耐力計算表	精算法(各階の床面積比を考慮した方法)	積雪	0.0	
床仕様	Ⅱ 火打ち+荒板(想定床倍率0.5以上1.0未満)	地域係数Z	1.0	
床面積	2階	26.50㎡ (8.01坪)	形状割増	2階 4m未満
	1階	57.97㎡ (17.53坪)	短辺の長さ	1階 4m以上6m未満

■上部構造の評価

階	方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置 eKf1	劣化度 dK	保有耐力 (kN) edQu=Qu・eKf1・dK	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	判定
2F	X	21.32	0.8932	1.0000	19.04	15.41	1.23	一応倒壊しない
	Y	18.76	1.0000	1.0000	18.76	15.41	1.21	一応倒壊しない
1F	X	52.49	1.0000	1.0000	52.49	46.76	1.12	一応倒壊しない
	Y	53.12	1.0000	1.0000	53.12	46.76	1.13	一応倒壊しない

注意事項：地盤・基礎

地盤・地形・基礎	対策	注意事項
地盤:悪い		
地形:平坦		
基礎:無筋コンクリート	健全	

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

地盤・基礎

地盤	対策	記入欄	注意事項
よい/普通			
悪い		○	
非常に悪い (埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている		
	杭基礎である 特別な対策を行っていない		

地形	対策	記入欄	注意事項
平坦・普通		○	
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積 特別な対策を行っていない		

基礎形式		記入欄	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		<ul style="list-style-type: none"> ・アンカーボルト、引き抜き金物が十分な性能を発揮できない場合があります。こうした箇所には補強が必要です。 ・地震時に、基礎が曲げ破壊し上部構造の性能を十分に発揮できない可能性があります。鉄筋コンクリート基礎などを沿えて基礎を補強する必要があります。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全	○	
	軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固め・底盤		
	足固めなし		
その他 (ブロック基礎等)			

在来軸組構法サンプル邸

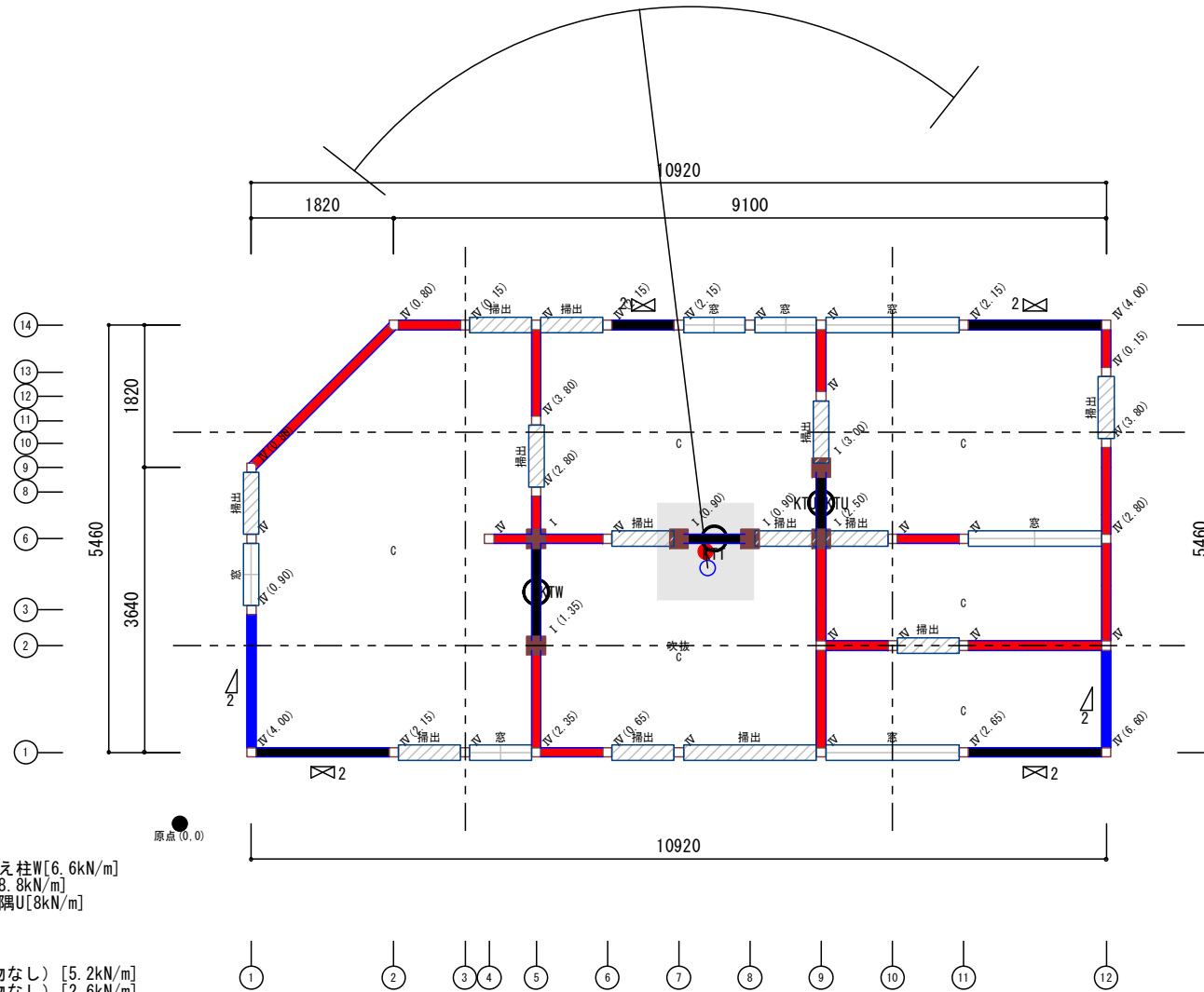
診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階平面図



- 凡例
- KTW: 【3】 MDFかべつよし大壁添え柱W[6.6kN/m]
 - KTT: 【1】 MDFかべつよし大壁T[8.8kN/m]
 - KTU: 【2】 MDFかべつよし大壁入隅U[8kN/m]
 - KTU: 石膏ボード張り[1.2kN/m]
 - C: 石膏ボード張り[1.2kN/m]
 - M: モルタル塗り壁[1.6kN/m]
 - 2: 筋かい木材 45×90以上 (金物なし) [5.2kN/m]
 - 2: 筋かい木材 45×90以上 (金物なし) [2.6kN/m]

壁基準耐力 (kN/m)

赤	3.0未満	
黄	3.0~5.0未満	
青	5.0~7.0未満	
黒	7.0~	

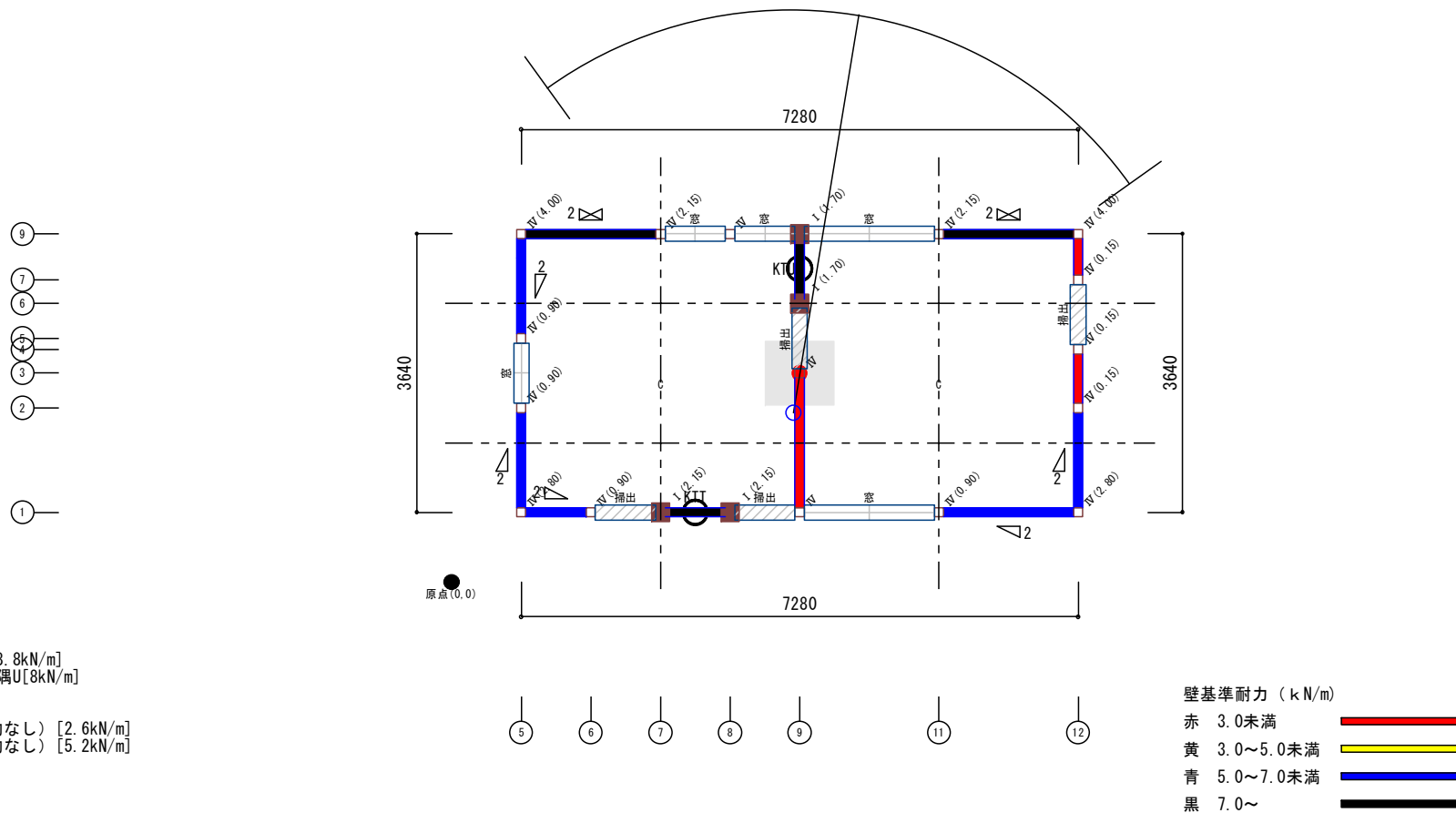
在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時: 2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード: 補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
 N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

2階平面図



- Y
凡例
- KTT: 【1】 MDFかべつよし大壁T[8.8kN/m]
 - KTU: 【2】 MDFかべつよし大壁入隅U[8kN/m]
 - C: 石膏ボード張り[1.2kN/m]
 - M: モルタル塗り壁[1.6kN/m]
 - 2: 筋かい木材 45×90以上 (金物なし) [2.6kN/m]
 - 2: 筋かい木材 45×90以上 (金物なし) [5.2kN/m]
- X

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時: 2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード: 補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
 N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

必要耐力の算出 [重い建物]

	床面積 (m ²)		床面積あたり 必要耐力 (kN/m ²)		積雪用 必要耐力 (kN/m ²)		地域係数 Z		軟弱地盤 割増係数		形状 割増係数		混構造 割増係数		必要耐力 Q _r (kN)
2階	26.50	× (0.5813	+)	0.0000) ×	1.0	×	1.0	×	1.00	×	1.0	=	15.41
1階	57.97		0.6204		0.0000						1.30		46.76		

床面積当たりの必要耐力算出根拠

Rf1= 2階床面積/ 1階床面積=0.4571

QKf12=1.3+0.07/Rf1=1.4531

QKf11=0.4+0.6*Rf1=0.6743

2階建の2階=0.40*QKf12=0.5813

2階建の1階=0.92*QKf11=0.6204

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (2階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)		接合部 耐力低減 Kj		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe	
桁行 (a)	9	5-7	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	5.20	8.00	x	① 0.2000	x	1.8200	-	IV	=	2.91				
			C	石膏ボード張り	1.20													
	M	モルタル塗り壁	1.60															
	9	11-12	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	5.20	8.00	x	① 0.2000	x	1.8200	-	IV	=	2.91	5.82			
C	石膏ボード張り	1.20																
M	モルタル塗り壁	1.60																
	9	7-11		窓型開口	0.60	x		x	3.0000			=			1.80	1.80	7.62	
桁行 (中央)														0.00			0.00	0.00
桁行 (b)	1	5-6	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	2.60	5.40	x	① 0.2400	x	0.9100	-	IV	=	1.17				
			M	モルタル塗り壁	1.60													
	C	石膏ボード張り	1.20															
	1	7-8	KTT	【1】MDFかべつよし大壁T	8.80	10.00	x	① 1.0000	x	0.9100	-	I	=	9.10				
	M	モルタル塗り壁	1.60															
	1	11-12	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	2.60	5.40	x	① 0.2400	x	1.8200	-	IV	=	2.35	12.62			
C	石膏ボード張り	1.20																
M	モルタル塗り壁	1.60																
1	6-7		掃き出し型開口	0.30	x		x	0.9100			=			0.27				
1	8-11		掃き出し型開口	0.30	x		x	2.7300			=			0.81	1.08	13.70		
合計														18.44		2.88	21.32	

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (2階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)		接合部 耐力低減 Kj		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe	
梁間 (イ)	5	1-2	2 C M	筋かい木材 45×90以上 (金物なし) 石膏ボード張り モルタル塗り壁	2.60 1.20 1.60	5.40	x	① 0.2400	x	1.3650	-	IV	=	1.76				4.06
	5	5-9	2 M C	筋かい木材 45×90以上 (金物なし) モルタル塗り壁 石膏ボード張り	2.60 1.60 1.20	5.40	x	① 0.2400	x	1.3650	-	IV	=	1.76	3.52			
	5	2-5		窓型開口		0.60	x		x	0.9100			=			0.54	0.54	
梁間 (中央)	9	1-3	C C	石膏ボード張り 石膏ボード張り	1.20 1.20	2.40	x	① 0.5600	x	1.8200	-	IV	=	2.44				11.08
	9	6-9	C KTU	石膏ボード張り 【2】MDFかべつよし大壁入隅U	1.20 8.00	9.20	x	① 1.0000	x	0.9100	-	I	=	8.37	10.81			
	9	3-6		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100			=			0.27	0.27	
梁間 (口)	12	1-2	2 M C	筋かい木材 45×90以上 (金物なし) モルタル塗り壁 石膏ボード張り	2.60 1.60 1.20	5.40	x	① 0.2400	x	1.3650	-	IV	=	1.76				3.62
	12	2-4	M C	モルタル塗り壁 石膏ボード張り	1.60 1.20	2.80	x	① 0.4200	x	0.7650	-	IV	=	0.89				
	12	7-9	C M	石膏ボード張り モルタル塗り壁	1.20 1.60	2.80	x	① 0.4200	x	0.6000	-	IV	=	0.70	3.35			
	12	4-7		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100			=			0.27	0.27	
合計														17.68		1.08	18.76	

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 F_w (kN/m)		接合部 耐力低減 K_j		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Q_{wi}	Q_w = $\sum Q_{wi}$	Q_{ei}	Q_e = $\sum Q_{ei}$	Q_u Q_w+Q_e	
桁行 (a)	9-14	1-2	C	石膏ボード張り	1.20	2.80	x	③ 0.6200	x	1.3650	II	IV	=	2.36	10.47			12.81
			M	モルタル塗り壁	1.60													
	14	2-3	C	石膏ボード張り	1.20	2.80	x	③ 0.6200	x	0.9100	II	IV	=	1.57				
			M	モルタル塗り壁	1.60													
	14	6-7	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	5.20	8.00	x	③ 0.3000	x	0.9100	II	IV	=	2.18				
			C	石膏ボード張り	1.20													
	14	11-12	M	モルタル塗り壁	1.60	8.00	x	③ 0.3000	x	1.8200	II	IV	=	4.36				
C			石膏ボード張り	1.20														
14	3-6		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=		0.54				
14	7-11		窓型開口		0.60	x		x	3.0000			=		1.80	2.34			
桁行 (中央)	6	4-5	C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	③ 0.6600	x	0.6000	II	IV	=	0.95	14.83			16.73
			C	石膏ボード張り	1.20													
	6	5-6	C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	0.9100	II	IV	=	2.00				
			C	石膏ボード張り	1.20													
	6	7-8	KTT	【1】MDFかべつよし大壁T	8.80	10.00	x	② 1.0000	x	0.9100	I	I	=	9.10				
			C	石膏ボード張り	1.20													
	6	10-11	C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	0.9100	II	IV	=	2.00				
			C	石膏ボード張り	1.20													
	9-14	1-2	C	石膏ボード張り	1.20	2.80	x	③ 0.6200	x	0.4550	II	IV	=	0.78				
			M	モルタル塗り壁	1.60													
6	6-7		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100			=		0.27				
6	8-10		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=		0.54				
6	11-12		窓型開口		0.60	x		x	1.8200			=		1.09	1.90			

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 F_w (kN/m)	接合部 耐力低減 K_j	壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Q_{wi}	Q_w = $\sum Q_{wi}$	Q_{ei}	Q_e = $\sum Q_{ei}$	Q_u Q_w+Q_e	
桁行 (b)	1	1-2	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	5.20	8.00	x	③ 0.3000	x	1.8200	II	IV	=	4.36	21.24	
			C	石膏ボード張り	1.20											
	M	モルタル塗り壁	1.60													
	1	5-6	C	石膏ボード張り	1.20	2.80	x	② 0.8400	x	0.9100	II	IV	=	2.14		
			M	モルタル塗り壁	1.60											
	1	11-12	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	5.20	8.00	x	② 0.6000	x	1.8200	II	IV	=	8.73		
			C	石膏ボード張り	1.20											
	M	モルタル塗り壁	1.60													
2	9-10	C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	0.9100	II	IV	=	2.00			
		C	石膏ボード張り	1.20												
2	11-12	C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	1.8200	II	IV	=	4.01			
		C	石膏ボード張り	1.20												
1	2-5		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200					0.54		
1	6-11		掃き出し型開口		0.30	x		x	3.0000					0.90		
2	10-11		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100					0.27		
合計												46.54		5.95	52.49	

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)	接合部 耐力低減 Kj	壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様	Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe	
梁間 (イ)	1	1-3	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	2.60											
			C	石膏ボード張り	1.20											
	M	モルタル塗り壁	1.60	5.40	x	③ 0.4600	x	1.8200	II	IV	=	4.52				
	1-2	9-14	C	石膏ボード張り	1.20											
			M	モルタル塗り壁	1.60	2.80	x	③ 0.6200	x	1.8200	II	IV	=	3.15	7.67	
	1	3-9		掃き出し型開口		0.30	x							0.54	0.54	8.21
梁間 (中央)	5	1-2	C	石膏ボード張り	1.20											
			C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	1.3650	II	IV	=	3.01		
	5	2-6	C	石膏ボード張り	1.20											
			KTW	【3】MDFかべつよし大壁添え柱W	6.60	7.80	x	② 1.0000	x	1.3650	I	I	=	10.64		
	5	6-8	C	石膏ボード張り	1.20											
			C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	0.6000	II	IV	=	1.32		
	5	11-14	C	石膏ボード張り	1.20											
			C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	③ 0.6600	x	1.2200	II	IV	=	1.93		
	9	1-2	C	石膏ボード張り	1.20											
			C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	1.3650	II	IV	=	3.01		
	9	2-6	C	石膏ボード張り	1.20											
			C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	② 0.9200	x	1.3650	II	IV	=	3.01		
9	6-9	KTU	石膏ボード張り	1.20												
		KTU	【2】MDFかべつよし大壁入隅U	8.00	9.20	x	② 1.0000	x	0.9100	I	I	=	8.37			
9	12-14	C	石膏ボード張り	1.20												
		C	石膏ボード張り	1.20	2.40	x	③ 0.6600	x	0.9100	II	IV	=	1.44	32.73		
5	8-11		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100				0.27			
9	9-12		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100				0.27	0.54	33.27	
梁間 (口)	12	1-2	2	筋かい木材 45×90以上 (金物なし)	2.60											
			M	モルタル塗り壁	1.60											
			C	石膏ボード張り	1.20	5.40	x	② 0.6800	x	1.3650	II	IV	=	5.01		
	12	2-6	C	石膏ボード張り	1.20											
			M	モルタル塗り壁	1.60	2.80	x	② 0.8400	x	1.3650	II	IV	=	3.21		
12	6-10	C	石膏ボード張り	1.20												
		M	モルタル塗り壁	1.60	2.80	x	③ 0.6200	x	1.2200	II	IV	=	2.11			
12	13-14	C	石膏ボード張り	1.20												
		M	モルタル塗り壁	1.60	2.80	x	③ 0.6200	x	0.6000	II	IV	=	1.04	11.37		
12	10-13		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100				0.27	0.27	11.64	
合計												51.77		1.35	53.12	

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

耐力要素の配置等による低減係数 $e K f I$

偏心率

		偏心率	配置による低減係数
2 F	X方向	0.19	0.8932
	Y方向	0.03	1.0000
1 F	X方向	0.05	1.0000
	Y方向	0.01	1.0000

	2階		1階	
	X方向の壁	Y方向の壁	X方向の壁	Y方向の壁
剛心座標 y_s, x_s	2.21	4.46	3.26	6.74
重心座標 y_g, x_g	2.73	4.55	3.48	6.71
偏心距離 e_y, e_x	0.52	0.09	0.21	0.03
弾力半径 r_{e-x}, r_{e-y}	2.80	2.98	4.10	4.08
偏心率 $Re-x, Re-y$	0.19	0.03	0.05	0.01

2階床面積の計算

ブロックNo.	左下X (m)	左下Y (m)	右上X (m)	右上Y (m)	ブロック面積 (A_i) (m^2)	床面積当たりの重量 (W_i) (kN/m^2)	面積X単位重量 ($A_i \cdot W_i$) (kN)	$A_i \cdot X_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot X_i \cdot W_i$	$A_i \cdot Y_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot Y_i \cdot W_i$
1	0.91	0.91	8.19	4.55	26.50	2.00	53.00	120.58	241.16	72.35	144.70
合計					26.50		53.00	120.58	241.16	72.35	144.70

1階床面積の計算

ブロックNo.	左下X (m)	左下Y (m)	右上X (m)	右上Y (m)	ブロック面積 (A_i) (m^2)	床面積当たりの重量 (W_i) (kN/m^2)	面積X単位重量 ($A_i \cdot W_i$) (kN)	$A_i \cdot X_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot X_i \cdot W_i$	$A_i \cdot Y_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot Y_i \cdot W_i$
1	0.91	0.91	2.73	4.55	6.62	2.00	13.24	12.05	24.10	18.07	36.14
2	0.91	4.55	2.73	6.37	1.66	2.00	3.32	3.52	7.04	8.56	17.12
3	2.73	0.91	4.55	4.55	6.62	2.00	13.24	24.10	48.20	18.07	36.14
4	2.73	4.55	4.55	6.37	3.31	2.00	6.62	12.05	24.10	18.07	36.14
5	4.55	0.91	11.83	4.55	26.50	2.60	68.90	217.04	564.30	72.35	188.11
6	4.55	4.55	11.83	6.37	13.25	2.00	26.50	108.52	217.04	72.35	144.70
合計					57.96		131.82	377.28	884.78	207.47	458.35

※は三角形

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

重心位置の計算

階	床面積 (m^2)	$\Sigma A_i \cdot x_i$	$\Sigma W \cdot x$	ΣW (kN)	重心座標 x_g (m)	$\Sigma A_i \cdot y_i$	$\Sigma W \cdot y$	ΣW (kN)	重心座標 y_g (m)
2	26.50	120.58	241.16	53.00	4.55	72.35	144.70	53.00	2.73
1	57.96	377.28	884.78	131.82	6.71	207.47	458.35	131.82	3.48

2階X方向壁

	Y座標 (m)	l_x	$l_x \cdot y$	$l_x X$ $(y-y_s)^2$
1	4.55	2.91	13.24	15.94
2	4.55	2.91	13.24	15.94
3	4.55	1.80	8.19	9.86
4	0.91	9.10	8.28	15.36
5	0.91	2.36	2.15	3.98
6	0.91	1.18	1.07	1.99
7	0.91	0.27	0.25	0.46
8	0.91	0.82	0.75	1.38
合計	18.20	21.35	47.17	64.93

2階Y方向壁

	X座標 (m)	l_y	$l_y \cdot x$	$l_y X$ $(x-x_s)^2$
1	8.19	0.71	5.81	9.85
2	8.19	0.90	7.37	12.49
3	8.19	1.77	14.50	24.56
4	8.19	0.27	2.21	3.75
5	4.55	2.45	11.15	0.02
6	4.55	8.37	38.08	0.06
7	4.55	0.27	1.23	0.00
8	0.91	1.77	1.61	22.37
9	0.91	1.77	1.61	22.37
10	0.91	0.55	0.50	6.95
合計	49.14	18.83	84.07	102.42

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階X方向壁

	Y座標 (m)	lx	lx·y	lxX (y-ys) ²
1	6.37	4.37	27.84	42.16
2	6.37	2.18	13.89	21.03
3	6.37	1.58	10.06	15.24
4	6.37	1.80	11.47	17.37
5	6.37	0.55	3.50	5.31
6	5.46	3.16	17.25	15.24
7	3.64	2.01	7.32	0.28
8	3.64	0.95	3.46	0.13
9	3.64	1.09	3.97	0.15
10	3.64	0.55	2.00	0.08
11	3.64	0.27	0.98	0.04
12	3.64	9.10	33.12	1.29
13	3.64	2.01	7.32	0.28
14	2.28	0.27	0.62	0.26
15	2.28	2.01	4.58	1.95
16	2.28	4.02	9.17	3.89
17	0.91	4.37	3.98	24.21
18	0.91	2.14	1.95	11.86
19	0.91	8.74	7.95	48.43
20	0.91	0.55	0.50	3.05
21	0.91	0.90	0.82	4.99
合計	74.18	52.62	171.75	217.24

1階Y方向壁

	X座標 (m)	ly	ly·x	lyX (x-xs) ²
1	11.83	3.21	37.97	83.23
2	11.83	2.12	25.08	54.97
3	11.83	1.04	12.30	26.96
4	11.83	5.01	59.27	129.89
5	11.83	0.27	3.19	7.00
6	8.19	3.01	24.65	6.34
7	8.19	3.01	24.65	6.34
8	8.19	1.44	11.79	3.04

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階Y方向壁

	X座標 (m)	ly	ly・x	lyX (x-x _s) ²
9	8.19	8.37	68.55	17.64
10	8.19	0.27	2.21	0.57
11	4.55	3.01	13.70	14.41
12	4.55	10.65	48.46	50.99
13	4.55	1.32	6.01	6.32
14	4.55	1.93	8.78	9.24
15	4.55	0.27	1.23	1.29
16	1.82	3.16	5.75	76.43
17	0.91	4.52	4.11	153.53
18	0.91	0.55	0.50	18.68
合計	126.49	53.16	358.20	666.89

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

劣化度による低減係数 dK

部位	材料、 部材等	劣化事象	存在点数		劣化 点数
			10年未満	10年以上	
屋根 葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	2
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある			
樋	樋・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2
外壁 仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	4
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある			
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある			
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある			
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	2
バル コ ニ ー	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	1	①	1
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある			
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある			
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある			
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	1	①	1
内 壁	一般室	内壁、窓下	2	②	2
	浴室	タイル壁	2	②	2
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	2	②
床	床面	一般室	2	②	2
		廊下	1	①	1
	床下	基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	2
合 計			0	24	0

劣化度による低減係数 dK 1 - (劣化点数/存在点数) = 1.0000

・補修後の診断における劣化低減係数の上限は0.9（現状が0.9を上回る場合は、その値）となります。

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09 Ver. 3.0.2

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

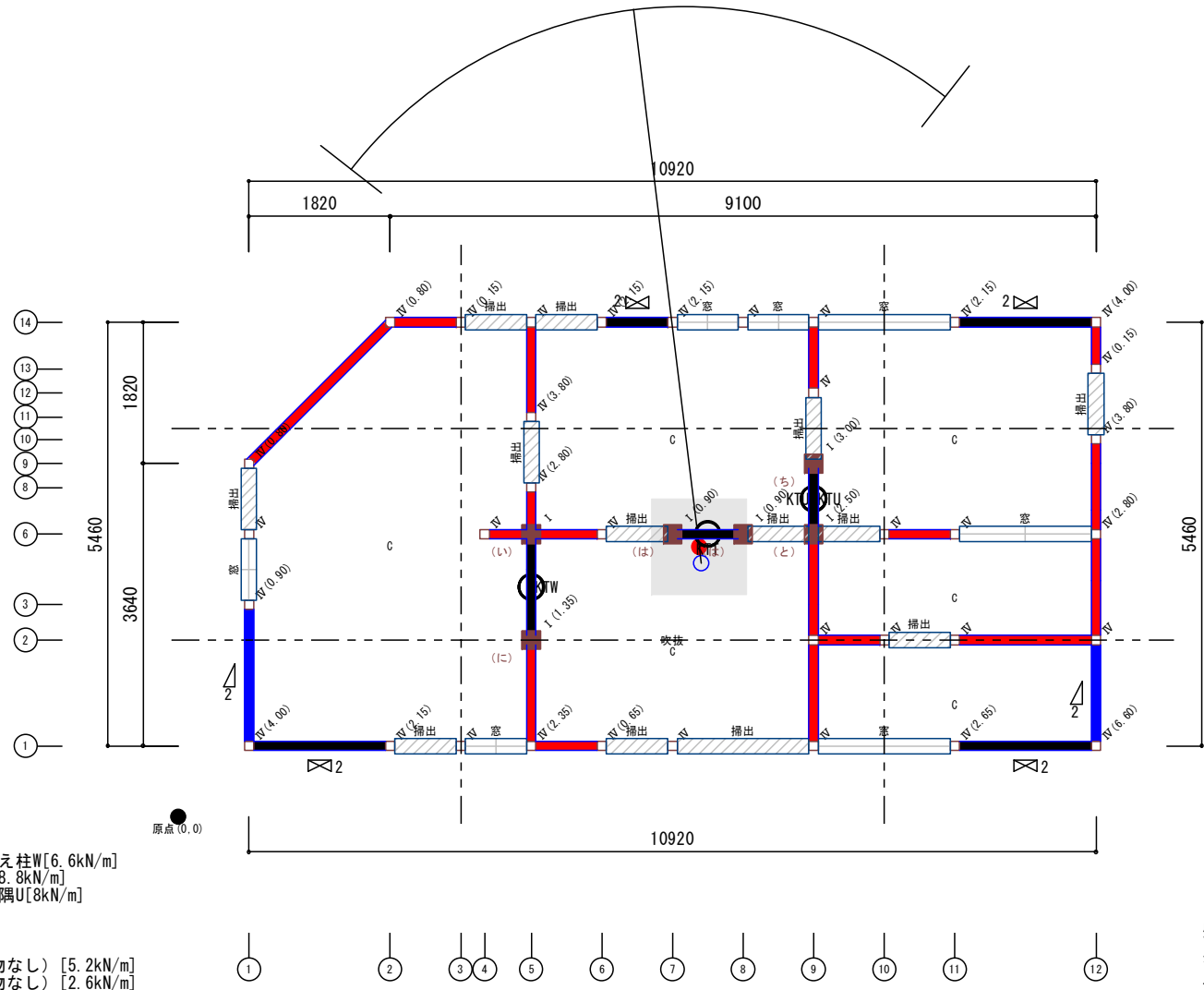
本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

N 値 計 算 書

■注意事項

- ・ N値計算の結果及びN値計算の結果に基づく金物記号等の表示機能については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。
- ・ 平成12年建設省告示第1460号第二号のただし書きから接合金物を求める方法（N値計算）に基づきN値を表示します。
- ・ N値計算の考え方には、(財)日本住宅・木材技術センターの書籍などに示された考え方等も考慮しています
- ・ 倍率の異なる耐力壁が直交して取り付く場合は、平面におけるX方向とY方向を区分してそれぞれのN値を計算し、大きい方のN値を採用します。
- ・ 1, 2階の軸組が1m以内でずれており、2階柱の直下に引抜き力を伝達する柱が無い場合、1, 2階の柱の位置が一致しているものとみなして計算を行います。

1 階平面図



- 凡例
- Y KTW: 【3】 MDFかべつよし大壁添え柱W[6.6kN/m]
 - KTT: 【1】 MDFかべつよし大壁T[8.8kN/m]
 - KTU: 【2】 MDFかべつよし大壁入隅U[8kN/m]
 - KTU: 石膏ボード張り[1.2kN/m]
 - C: 石膏ボード張り[1.2kN/m]
 - M: モルタル塗り壁[1.6kN/m]
 - 2: 筋かい木材 45×90以上 (金物なし) [5.2kN/m]
 - 2: 筋かい木材 45×90以上 (金物なし) [2.6kN/m]
- X

壁基準耐力 (kN/m)	
赤	3.0未満
黄	3.0~5.0未満
青	5.0~7.0未満
黒	7.0~

在来軸組構法サンプル邸

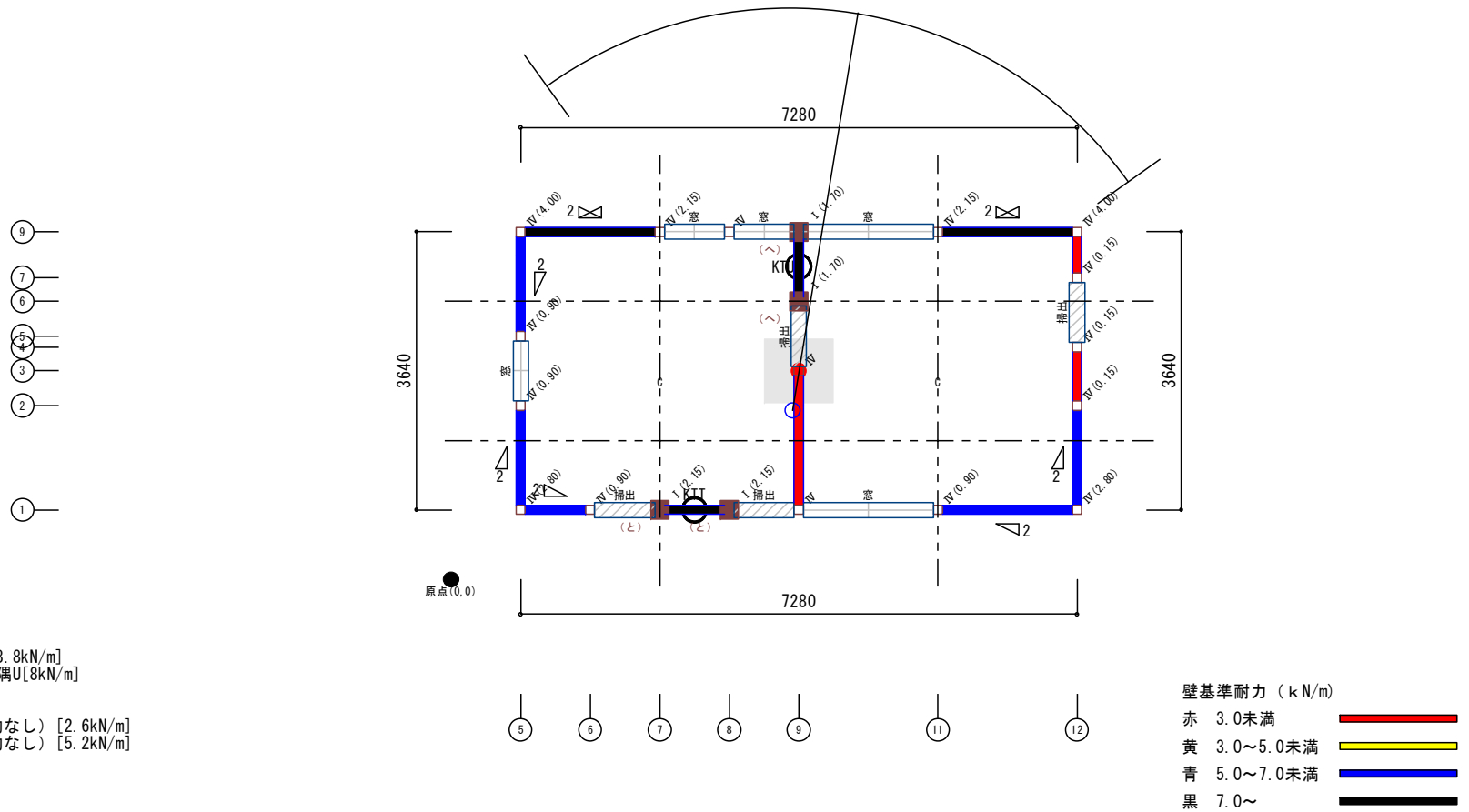
診断書作成日時: 2020年11月13日14:09

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

N値計算の結果及びN値計算の結果に基づく金物記号等の表示機能については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

2階平面図



在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09

物件コード:

補強案 1 0.75→1.12

N値計算の結果及びN値計算の結果に基づく金物記号等の表示機能については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

N値計算 1階

計算式 $N値=A1 \times B1 + A2 \times B2 - L$

※A1, A2は補正値を反映済みの値です

X通り	Y通り	補正値	A1 壁倍率差 (1階)	B1	補正値	A2 壁倍率差 (2階)	B2	L	1階 N値
1	1	0	5.5	0.8				0.4	4
2	1	0	5.5	0.5				0.6	2.15
3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	1.5	0.5	0.5	4	0.8	1.6	2.35
6	1	0	1.5	0.5	-0.5	3	0.5	1.6	0.65
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0
9	1	0	1	0.5	0	1	0.5	1.6	-0.6
11	1	0	5.5	0.5	-0.5	3	0.5	1.6	2.65
12	1	0	5.5	0.8	0.5	4	0.8	1	6.6
5	2	0	2.9	0.5	-0.5	3	0.5	1.6	1.35
9	2	0	1	0.5				1.6	-1.1
10	2	0	1	0.5				1.6	-1.1
11	2	0	1	0.5				1.6	-1.1
12	2	-0.5	1.5	0.5	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.1
1	3	-0.5	3	0.5				0.6	0.9
1	6	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	1	0.5				0.6	-0.1
5	6	0	2.9	0.5				1.6	-0.15
6	6	0	1	0.5				1.6	-1.1
7	6	0	5	0.5				1.6	0.9
8	6	0	5	0.5				1.6	0.9
9	6	0	3.6	0.5	0	4.6	0.5	1.6	2.5
10	6	0	1	0.5				1.6	-1.1
11	6	0	1	0.5				1.6	-1.1
12	6	0	0	0.5	0	5.5	0.8	1.6	2.8
5	8	0	0	0.5	0	5.5	0.8	1.6	2.8
1	9	0	1.5	0.8				0.4	0.8
9	9	0	4.6	0.5	0	4.6	0.5	1.6	3
12	10	0	0	0.5	0	5.5	0.8	0.6	3.8
5	11	0	0	0.5	0	5.5	0.8	0.6	3.8
9	12	0	1	0.5				0.6	-0.1
12	13	0	1.5	0.5				0.6	0.15
2	14	0	1.5	0.8				0.4	0.8
3	14	0	1.5	0.5				0.6	0.15
5	14	0	1	0.5				0.6	-0.1
6	14	0	5.5	0.5				0.6	2.15
7	14	0	5.5	0.5				0.6	2.15
8	14	0	0	0	0	0	0	0	0
9	14	0	1	0.5				0.6	-0.1
11	14	0	5.5	0.5				0.6	2.15

在来軸組構法サンプル邸

診断書作成日時:2020年11月13日14:09

物件コード:

補強案 1

N値計算 1階

計算式 $N値 = A1 \times B1 + A2 \times B2 - L$

※A1, A2は補正値を反映済みの値です

X通り	Y通り	補正値	A1 壁倍率差 (1階)	B1	補正値	A2 壁倍率差 (2階)	B2	L	1階 N値
12	14	0	5.5	0.8				0.4	4

N値計算 2階

計算式 $N値=A1 \times B1 - L$

※A1は補正値を反映済みの値です

X通り	Y通り	補正値	A1 壁倍率差	B1	L	2階 N値
5	1	0.5	4	0.8	0.4	2.8
6	1	-0.5	3	0.5	0.6	0.9
7	1	0	5.5	0.5	0.6	2.15
8	1	0	5.5	0.5	0.6	2.15
9	1	0	1	0.5	0.6	-0.1
11	1	-0.5	3	0.5	0.6	0.9
12	1	0.5	4	0.8	0.4	2.8
5	2	-0.5	3	0.5	0.6	0.9
12	2	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15
9	3	0	1	0.5	0.6	-0.1
12	4	0	1.5	0.5	0.6	0.15
5	5	-0.5	3	0.5	0.6	0.9
9	6	0	4.6	0.5	0.6	1.7
12	7	0	1.5	0.5	0.6	0.15
5	9	0	5.5	0.8	0.4	4
7	9	0	5.5	0.5	0.6	2.15
8	9	0	0	0	0	0
9	9	0	4.6	0.5	0.6	1.7
11	9	0	5.5	0.5	0.6	2.15
12	9	0	5.5	0.8	0.4	4